

愛知県電機工業協同組合

時代とともに変化する 電機機器の修理、メンテナンス

産業経済の発展を末端で支え続ける

愛知県電機工業協同組合はモーター、ポンプ、送排風機、トランスなどの販売、加工、修理などを行う事業者の集まりで、当時の政府の指導のもと、昭和9年（1934）に名古屋電業組合として創立しました。当初はモーターを中心とした電機機器の修理を主に行っていました。モーターの修理には電線や絶縁材が欠かせません。また、モーターの軸受けのベアリングは軍需用でした。民生用には使えず、合金製の軸受けを使用しましたが、摩耗のため頻繁な修理が必要でした。戦後の昭和25年（1950）に愛知県電機加修工業協同組合として再出発します。戦後しばらくはモーター修理などで業界の需要は大きく伸び組合員も140社ほどになりました。

昭和33年（1958）に現在の組合名に改称したころから日本のモーターの質も向上し、さらに日本製の木工機械が海外へ輸出されるようになりました。外国と日本では電圧が異なるため、海外向けに改造するなど、きめの細かい対応を行う中で、業界のレ



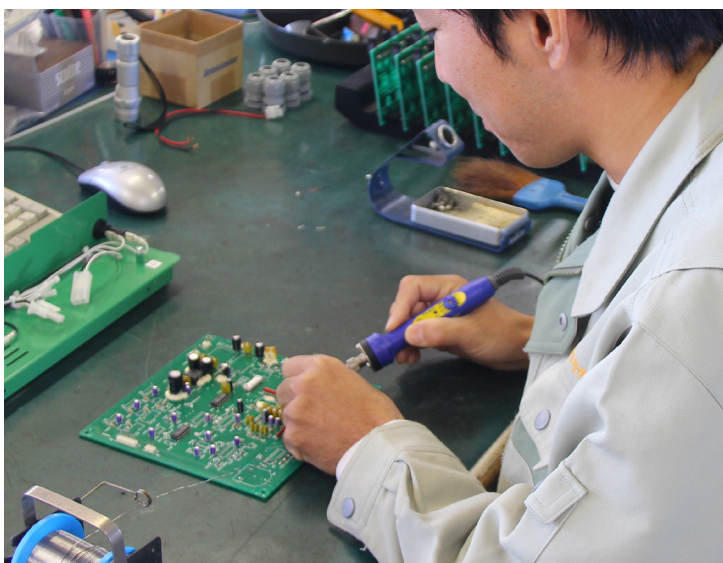
電気機器配線は人間にとっての血管のようなもの、1本1本の確認が大事

ベルアップにも繋がりました。

幅を広げる仕事の内容

日本の高度経済成長とともに、家庭にも冷蔵庫、洗濯機など、多くの家電製品が普及します。街の電気屋を通じて、それらの修理も増えました。組合加入企業の事業内容も電機機器の製造、販売、工事、修理などと幅を広げていきました。ただ、最近は高額で特殊なものは別として、故障したら買い替える事例が増えています。

そうした中、平成元年（1989）に、次代を担う後継者の育成、能力技術向上を目的にした「愛知県電機技術振興会」を、配電盤・制御盤製造業の団体「東海配電盤工業協同組合」（現在：日本配電制御システム工業会中部支部）の賛同者によって設立し、教育実施施設の「愛知県電機技術工学院」を併設しました。現在の組合加入者は57社です。企業の人材確保と海外への技術援助を兼ね、組合は外国人実習生の受け入れと人材の紹介を進めるほか、仕事を通じて自分自身で仕事の魅力を見つけ出せる事ができるよう力を入れています。



「はんだこて」を使用して細かなチップを基盤の上に固定